

こころ育てる絵本との出会い

まがちゃん通信

2014 8 - 9 vol. **27**

絵本原画展 黒井 健

特集 開館20周年に寄せて



くろい けん 黒井 健



黒井 健 (くろい けん) プロフィール

新潟市生まれ。新潟大学教育学部美術科卒。

出版社に入社、絵本の編集に携わった後に退社、フリーのイラストレーターとなる。以降、絵本・童話のイラストレーションの仕事を中心に活動。主な絵本作品に『ごんぎつね』『手ぶくろを買いに』(偕成社)『うまれてきてくれてありがとう』(童心社)『Hotel』『LONG NIGHT』(瑞雲舎)、画集に『ミシシッピ』(偕成社)等絵を担当した絵本が200冊を超える。

2003年に山梨県清里に、自作絵本原画を常設する「黒井 健絵本ハウス」を設立する。神奈川県川崎市在住。

画業40周年を経て、繊細で美しい
絵本の世界を描き続ける黒井 健さん。
文章に書かれている作者の心と共感し
心からしびれるような絵本を作りたい。

絵本原画展開催

平成26年7月24日(木)～平成26年9月28日(日)



『かかしのじいさん』
(深山さくら／文 佼成出版社)



『バスがくるまで』
(森山京／文 小峰書店)



『ころわん どきどき』
(間所ひさこ／文 ひめきたチャイルド)



『おつきさんのぼうし』
(高木さんこ／文 講談社)

原画展示絵本

夏のギャラフリーでは、

美しいお月様を描いたファンタジー絵本『おつきさんのぼつ』その他、黒井健さんが描く数々の名作絵本をご紹介します。

黒井 健先生に

インタビュー



絵本作家になられたきっかけは？

絵本と出会ったのは、絵本編集者として勤めたおかげです。多くの作家さん絵描きさんにお会いしているうちに自分も描きたいと思い始めたようです。もともとはイラストレーターを夢見ていましたから、様々なジャンルに絵を描いてきましたが、しだいに絵本に描く機会が増えていきました。これは私に与えられた宿命かもしれません。

画材は何を使っていますか？

初期の頃は主に色鉛筆でした。最近はそれに加えて、オイルパステル、マーカー、鉛筆です。

今回、絵本原画展を行う絵本の制作秘話や思い出を教えてください。

『おつきさんのぼつ』

担当編集者が3人も代わりました。というのは、あまりに長く描き出さなかつたものからです。担当者が異動してしまったのです。私が物語構成に意見を言い始めて、高木氏となかなか一致を見なかつたのです。高木氏が友人でもありましたので忌憚のない意見を戦わせながら8年の時が過ぎていきました。

『うまれてきてくれてありがとう』

“かわいい”の答えを求めて描いた絵本です。愛おしく、抱きしめたくなるほどの“かわいい”を、なんとか表現したかった絵本です。

『ころわん』シリーズ

1983年に間所ひさこさんとの絵本、『ころわん』が生まれて30年が経ちます。園に配本される直販保育絵本として、ほぼ毎年1作が生まれていました。これほど長い期間の

連作を持たない私にとって毎年同じような絵を描いていいのだろうかと思いつつもありました。その度に、読者からお手紙をいただき、サイン会などで「毎回楽しみにしています！」と励まされながら描いてきました。「パスがくるまで」

森山さんの作品を読むと、いつも「ああそうだった、こんな気持ちだった」と幼ころの記憶がもどってきます。期待や不安、とまどいなどが伝わってきて、そしてどれもけなげでかわいいのです。ほのぼの、のんびりを表現するために、筆を使って描きました。

『かかしさんのぼつ』

かかしのじいさんは布に描かれた平面的な顔、どんな顔のじいさんにしようかあれこれスケッチしているうちに、こわい顔なのになにか間の抜けたじいさんになっていきました。

『赤いポストといしゃさん』

文章を書かれた薫くみさんはなかなか面白い方でした。主人公の歯医者さんの青年の人物像に迷った私は、ずんぐりとした純朴な青年とすらりとした背の高いハンサム風な青年を見てもいい、どっちがいい？と聞きましたら、『ハンサムの方がいい！』。主人公の姿が決まることによって、診療所のデザインが決まっていきました。

『かさじぞう』

この題材は、雑誌を含めて幾度か描いたことがありました。以前に描いたことのあるお話に、また絵をつけることに必要ないことがありますが、それは前に描ききれなかつた新たなイメージを持つことなのです。松谷さんの深い視点、その動機になってくれました。

今まで手がけられた絵本の中で、一番印象深い絵本は？

『こんぎつね』です。この絵本を描く前年、私は仕事に追われて年間15冊以上の本を制作

していました。しかし年末になって書店に行くとみると私の描いた絵本は一冊も見つけることは出来ない始末でした。描いた絵本を誰からも見てもらえない焦燥感に激しく襲われていました。そんな折、この作品を依頼されたのです。自信を失っていた私はどう描いたらいいかわからなくなっていました。探しあぐねて新美南吉のふるさと半田市をたずねました。そこで2、3日過ごした後描き始めました。1枚描いては迷い、2枚描いては立ち止まり、仕上がった絵は今まで描いたことのない絵になっていました。この絵本の表紙を描き上げた時の満足感や喜びは今でも覚えています。この物語との出会いがなかったら今の私は考えられません。私の絵本への考え方を根底から変えてくれた絵本でした。最も大切な一冊です。

絵本をお作りになるときのこだわりは？

文章に書かれている作者の心と共感するところを見つけ出すことです。

今後どのような絵本を描いていかれますか？
心からしびれるような作品に絵を描けることを願っています。

ご趣味についてお聞かせください。
打ち合わせのついでに、ブラブラと街を散策することかもしれません。

好きな言葉を教えてください。
『なんとかなるさ』です。

ファンの方へメッセージをお願いします。

ここまで続けてこられたのは、皆さんのご支持のおかげです。
今までいただいた信頼に添えるよう、これから精進します。

黒井 健先生、ありがとうございました！

黒井 健先生サイン入りの 絵本を3名様にプレゼント

応募方法 氏名、年令、住所、電話番号をご明記のうえ、ハガキでご応募ください。

あて先 〒939-0283 射水市鳥取50

射水市大島絵本館

黒井 健サイン本プレゼント係

締め切り 平成26年9月10日 消印有効

※発表は発送をもって代えさせていただきます。

7/27(日)
10:00~11:30

黒井 健
サイン会開催

※70名様限定



『うまれてきてくれて
ありがとう』
(童心社)



『かさじぞう』
(松谷みよ子/文 童心社)



『赤いポストといしゃさん』
(薫くみこ/文 ポプラ社)



小川 裕之
射水市絵本文化振興財団 理事長

特集 / 開館20周年に 寄せて

一粒の絵本の種から

1988年開町100周年記念に刊行した一冊の絵本『おおしまふるさとのえほん』

を契機に、俄然、町全域で絵本への関心が高まった。やがて一粒の種が力強く根を張り、絵本文化の土壌が豊かに肥やされて、子どもたちだけでなく地域の人すべてがふれ合い楽しめる個性的なまちづくりを目指した絵本文化の推進事業が始動した。

6年後の1994年8月23日には、活動の拠点となる待望の大島絵本館が白鳥伝説の地、鳥取に開館した。

財政上巨大な投資となり、しかも即効的に成果の出ない事業だけに、当初、住民からかなりの反対もあった。しかし当時の吉田力町長(初代理事長)は「子どもたちはまちの宝だ。未来を拓く子どもたちが故郷の文化を継承し、新しくものを創造する力を養うことは郷土の発展に必ずつながる」と力説し、大変なご苦労をされながら議会の理解、協力を得たと伺っている。

*

開館以来、当館は堅調な歩みを続け、去る5月8日には入館者が開館以来80万人にまで達した。これはひとえに、今日まで幾多の試練を乗り越え、情熱を注がれた先人たちが、また職員が研鑽を重ね、職務に精励

した功績と高く評価したい。

*

ところで当館の絵本文化事業には、手づくり絵本コンクールを始め、絵本原画展、絵本会議、創作教室など欠かすことなく継続している事業が多い。そのような中、現在、新たな事業を展開中である。来春の北陸新幹線開業に向け、新幹線沿線にある軽井沢絵本の森美術館、信濃町の黒姫童話館、当射水市大島絵本館の3館が連携し、スタンプラリーや共通割引の導入、合同研修会、収蔵資料の貸し借り、展示企画に関する情報交換を行うというものである。より多くの人々に絵本文化の奥深さを知っていただくものと期待している。

*

これからも絵本の良さを発掘する事業を通じて、地域文化の創造、まちの活性化につなげ、市民の心のふれ合いや交流の場として寄与していきたい。

来る8月23日に当館は創立20周年の大きな節目を迎える。日頃お世話になっている射水市当局をはじめ、関係機関、地域振興会、地元自治会、多くの関係者の皆さまに感謝と敬意の意を表し、共に開館20周年記念を祝っていただければ心より嬉しく思う。

私のおすすめ絵本

射水・黒姫高嶺・軽井沢

絵本夢回廊
～絵本文化をつむぐ広域ネットワーク～

新高岡 富山 飯山 長野 軽井沢 東京

信濃町黒姫童話館
2016年 開館25周年

射水市大島絵本館
2014年 開館20周年

絵本3館連携
北陸新幹線沿線の絵本館ネットワーク

軽井沢絵本の森美術館
2015年 開館25周年

軽井沢、黒姫、射水、3館3様の絵本の世界に触れてみませんか。入館料の割引やスタンプラリーを実施中。来春「北陸新幹線」が開通すれば、もっともっと3館が近づきます。絵本の町にぜひお出かけください。



『みしま野の白いとり』

おざわ あきみ／文 みなみ かなこ／絵
射水市大島絵本館

絵本館が佇む鳥取の地に伝わる
白鳥伝説をモチーフとした創作絵本。



『おおしま ふるさとのえほん』

大島町郷土絵本編集委員会／作
射水市大島絵本館

開町100周年を記念して出版された。
地域に伝わる伝説や民話、町史が
まとめられている。



オリジナル
ポストカード
セット

『おおしま ふるさとのえほん』と
オリジナルポストカードセットを
20名の方にプレゼント!

あて先★「おおしま絵本プレゼント係」まで。
※応募方法等はP2のプレゼント欄と同じです。